

検定フェスティバル2019

「世界遺産検定」活用事例

検定対策から探究的な学習へ

大阪学芸中等教育学校

英語科教諭： 金宮嗣允

本日、お伝えしたいこと

- 勤務校の紹介
- 「世界遺産検定」導入のきっかけ
- 活用事例
- 「世界遺産学習」の意義

「大阪学芸中等教育学校」(私立中高一貫校)



- 創立、1996年4月
- 大阪府唯一の中等教育学校
- 在校生(1年から6年) 463名
- 2010年(平成22年)11月15日付で、フランス・パリ市に本部を置くユネスコから、ユネスコスクールへの加盟が認められる。

【「世界遺産検定」導入のきっかけ①】

ユネスコスクールとは？

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを**ESDの推進拠点**として位置付けています。現在、世界180か国以上の国・地域で11,000校以上のユネスコスクールがあります。**日本国内の加盟校数は、「国連持続可能な開発のための教育の10年(DES D)」が始まった平成17年から飛躍的に増加しており、平成30年10月時点で1,116校となり、1か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっています。**(文部科学省HPより)

【「世界遺産検定」導入のきっかけ②】

ESD (Education for Sustainable Development) とは？

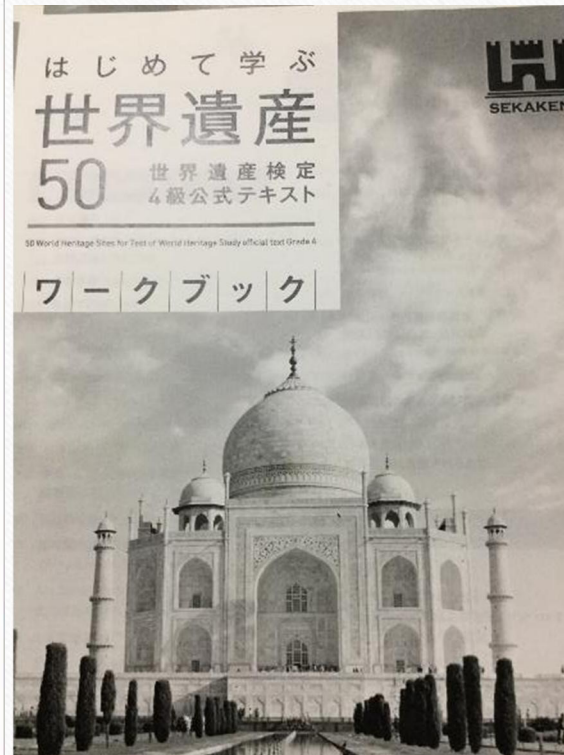
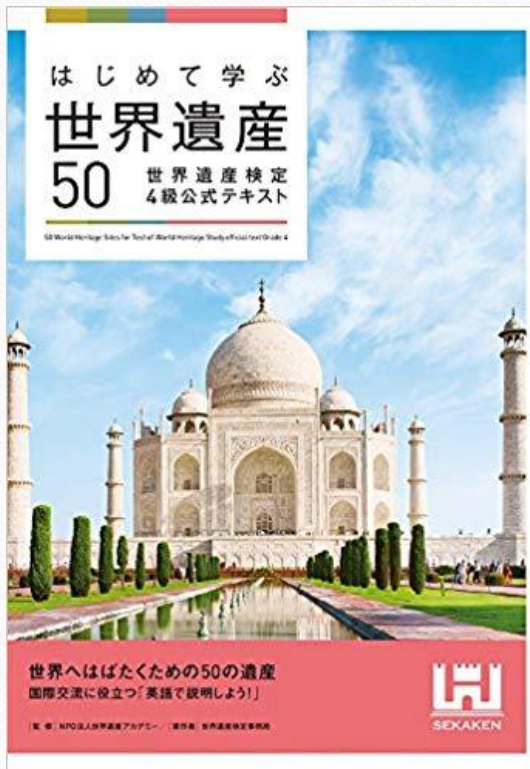


ESD (「持続可能な開発のための教育」)

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。(文部科学省HPより)

【「世界遺産検定」導入のきっかけ③】

世界遺産検定4級公式テキスト



大学入試で優遇

【「世界遺産検定」活用事例】

- ①「達成感」を積み重ねる
- ②「修学旅行」の事前学習
- ③大学入試対策
- ④教科横断型授業の教材
- ⑤英語で伝える世界遺産
- ⑥「探究的な学習」の題材
- ⑦フィールドワーク

【「世界遺産学習」の意義】

なぜ、「世界遺産」を授業で学ぶのか？



中1・2生が共同で製作したエコキャップモザイクアート

「大切にする気持ちを育むために」
「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

(ユネスコ憲章(前文))